テーマ

PMコース　矢吹研究室　1142106　丸山　準人

1. 研究の背景

野球界ではマネーボール[1]を参考にしたチーム作りが主流になりつつある．

その補強の仕方は，打率よりも出塁率が高い選手をより多く獲得することである．その理由としては，打率は守備の陣形により左右されるからだ．例えば，どれだけ良い当たりだったとしても野手の正面に飛んでしまえばアウトだし，当たりが悪くても野手がそこにいなければヒットになる．しかし，出塁率はヒットだけでなくどれだけ四球を選べるかも大いに関わり重要である．四球は地味な成績ではあるが，この選球眼というのは天賦の才といったもので，プロの世界に入れば身に付くというものではない．プロの世界では，長打が打てて守備が上手い選手は高額な年俸が必要となるが，このような出塁率が高い選手は年俸が安価で獲得しやすく得点力の高いチームを作ることができる．

　サッカー界でも，この戦術が主流になりつつある．

しかし，野球ほどデータを分析すべきデータが単純ではないためより高度な分析が必要となる．さらに，野球の場合は統計上の知識／分析力があればある程度は容易に分析できるが，サッカーの場合は分析力とサッカーの知識の双方において理解することが不可欠なのが特徴的だ．サッカーは時代と共に戦術が変わり，必要となる選手のスキルもそれに合わせて変化することから，選手の評価基準を柔軟に変更することが必要である[2]．

この戦術を取り入れ少しの成功を収めているチームがある．それは，プレミアリーグ（イングランドのリーグ）のニューカッスルだ[3]．クラブの経営状況は，リーグの上位クラブに比べたら足元にも及ばない．そこで，ニューカッスルが掲げたチームは，「ポゼッションを重視するスタイル」「過小評価されている選手に本来の価値を見出す」である．まず補強したのが，強豪クラブが目を付けるほど素晴らしい才能を持っていたチャンスメーカーをレンタルという形で獲得した．その理由としては，私生活に難があることや大怪我で商品価値が下がった選手だったからである．そういった選手を上手く獲得することで各上のクラブにも勝てるクラブを築いた．

そこで，この成功事例を基にJリーグのクラブに注目し提案をする．

2. 研究の目的

第1節でも述べたように，サッカー界でも選手の成績を解析してチームを作ることが主流になりつつある．そこで本研究では，Jリーグの選手の成績（今回は，パスの成功率と決定率とする）をポジション別に調査し，解析する．そして， 商品価値の落ちた選手を見つけ提案をする．

3. プロジェクトマネジメントとの関連

サッカーチームは，メンバーに特定の役割と責任が割り当てられ，チームの戦術にはメンバー全員が関与しているので，PMBOK[4]が提唱するプロジェクトマネジメントの知識エリアの中では，プロジェクト人的資源マネジメントに関係がある．

4. 研究の方法

研究方法は以下の通りである．

1. 解析ツールを検討する．
2. 第2節で述べた選手とチームの成績を調査する．
3. ②で調査したデータをポジションごとにまとめ解析する．
4. 良い成績を残していて商品価値が落ちている選手を見つけ提案する．

5. 現在の進捗状況

　解析するためのツールがどのくらいあるかまた，それぞれどのような解析ができるかについて調査している．また，成績をまとめる作業を行っている．

　今後，解析結果を記載する予定．

6. 今後の計画

|  |  |
| --- | --- |
| 日付 | 内容 |
| 2013年12月～2014年1月 | 解析ツールを検討　選手の成績を調査 |
| 2014年2月～2014年5月 | ポジション別に解析 |
| 2014年6月～2014年9月 | 良い成績を残していて商品価値が落ちている選手を見つけ提案 |
| 2014年7月～ | 論文執筆 |
| 2014年10月～ | 発表準備 |

参考文献

[1] マイケル・ルイス／中山宥訳. マネー・ボール　奇跡のチームをつくった男. ランダムハウス講談社. 2004.

[2] 弁護士投資家. Stanford MBA留学記:マネーボール理論のサッカーへの適用. 2012. <http://stanfordmbaryugakuki.blogspot.com/2012/04/blog-post_10.html>

[3] 山中忍. プレミアリーグ版“マネーボール”？清貧クラブのニューカッスルが躍進. 2012. <http://number.bunshun.jp/articles/-/216542>

[4] Project Management Institute,Inc. プロジェクトマネジメント知識体系ガイド. 第4版. 2009-12. P.215-242.